

聖天山保全配慮計画(素案)

1. 計画の位置づけ

上位計画

新・大阪市緑の基本計画(H25.1)

基本理念

みどりの魅力あふれる大都市・大阪

～だれもが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの都市”へ～

＜保全配慮地区の考え方＞

- ・ 風致景観の保全、生態系の保全、市民の自然とのふれあいの場提供の観点等から、今後の地区内における緑地保全施策、保全配慮計画を検討・策定し、実践していく。
- ・ みどりの保全の重要性を明らかにし、意識啓発を図り、市民・事業者・行政が一体となって貴重なみどりの保全につなげていく。

＜保全配慮地区の設定＞

- ・ 大阪の個性を特徴づける“みどりの骨格”に位置づけているエリアを中心に、4地区を設定

- ① 夕陽丘・生玉地区
- ② 天王寺地区
- ③ 杭全地区
- ④ 聖天山地区



関連計画

大阪のまちづくりグランドデザイン(R4.12)

- まちづくりの基本目標
「未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり」
- まちづくりの戦略と取組と方向性が示されており、みどりに関連するものとして以下が挙げられている。
 - ・ 多様な地域資源を活かした魅力あふれる都市空間
 - ・ 豊かな都市空間を想像するまちづくり
 - ・ グリーン社会実現に向けたまちづくり など

大阪市生物多様性戦略(R3.3)

- 上町台地を、「生物多様性ホットスポット」と位置づけ。
- 聖天山保全配慮地区を、「生態系ネットワークの拠点となりうる貴重な自然環境」と位置づけ

阿倍野区将来ビジョン(R3.4)

- 「誰もが住みたい、住み続けたいまち『あべの』」の実現に向け、5つの将来像と施策展開の方向性を示している。

大阪市景観計画(R2.10)

- 景観形成の目標
- ・ 都市の風格や活力を高め、まちへの愛着や誇りを育む大阪らしい景観をつくる
- 上町台地景観配慮ゾーンの設定
- ・ 坂・歴史・緑が連なるエリアの特性をいかして、坂の下からの見え方への配慮や、歴史的景観資源や緑との調和に配慮したまちなみ景観の形成を図るゾーン

風の道ビジョン(H23.3)

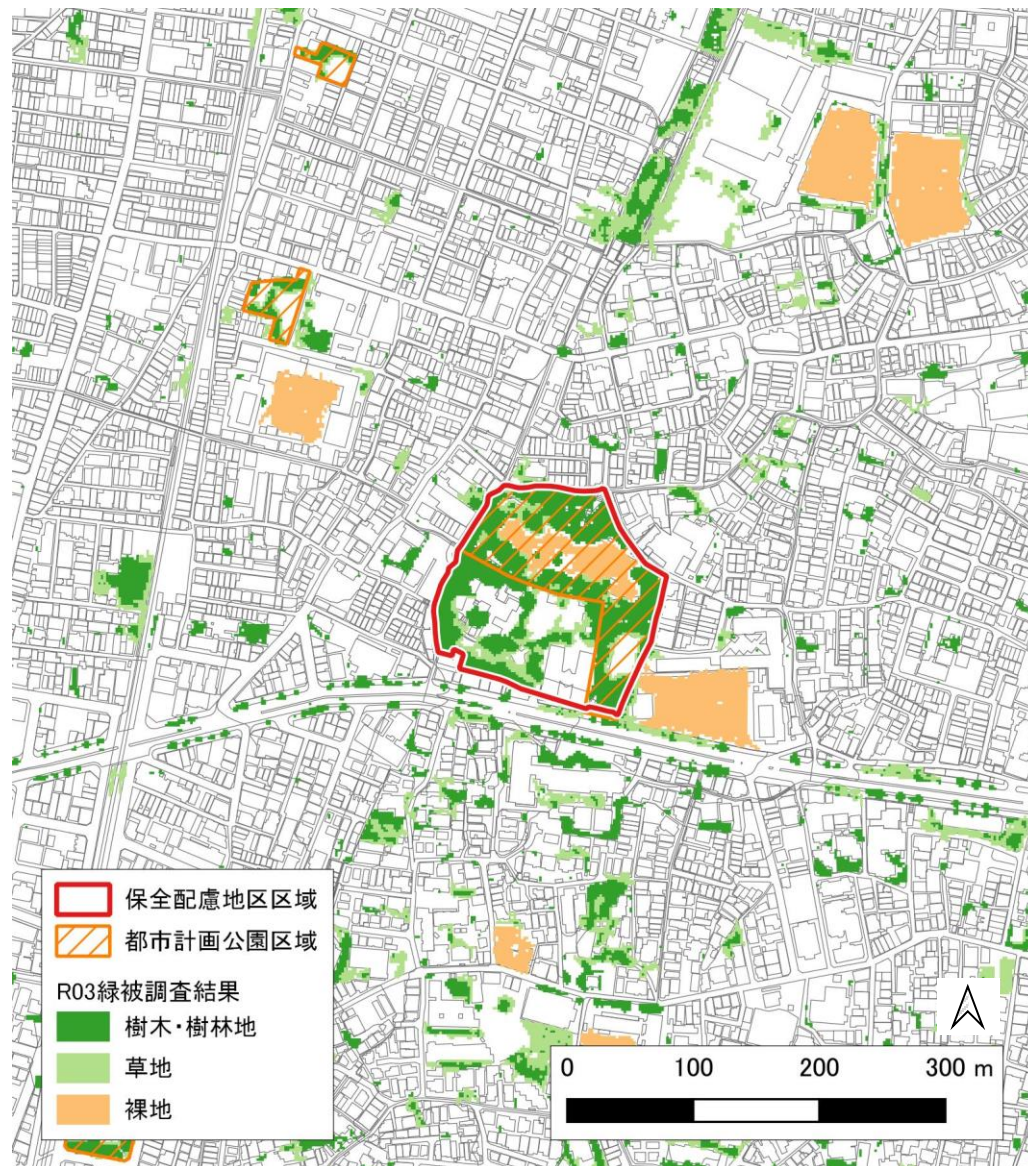
- 将来像
- ・ 水と緑に包まれ心地よい風が流れる環境先進都市 大阪
- 3つの戦略
- ・ 「風通しのよいまちをつくる」、「涼しい『風』を保つ」、「協働と連携を強化する」

上位計画・関連計画を踏まえ、「**聖天山保全配慮計画**」を作成

2. 聖天山保全配慮地区の現況

(1) 地区の概要

- 聖天山古墳を含む聖天山公園(近隣公園、1.6ha)と正圓寺により一団の緑が構成されている。
- 周辺道路より高台にあることから、まとまりのある緑が地区のランドマーク的存在となっている。
- 公園の中央部には、シンボリックなクスノキの巨木が見られる。



地区概要図

(2) 用途地域

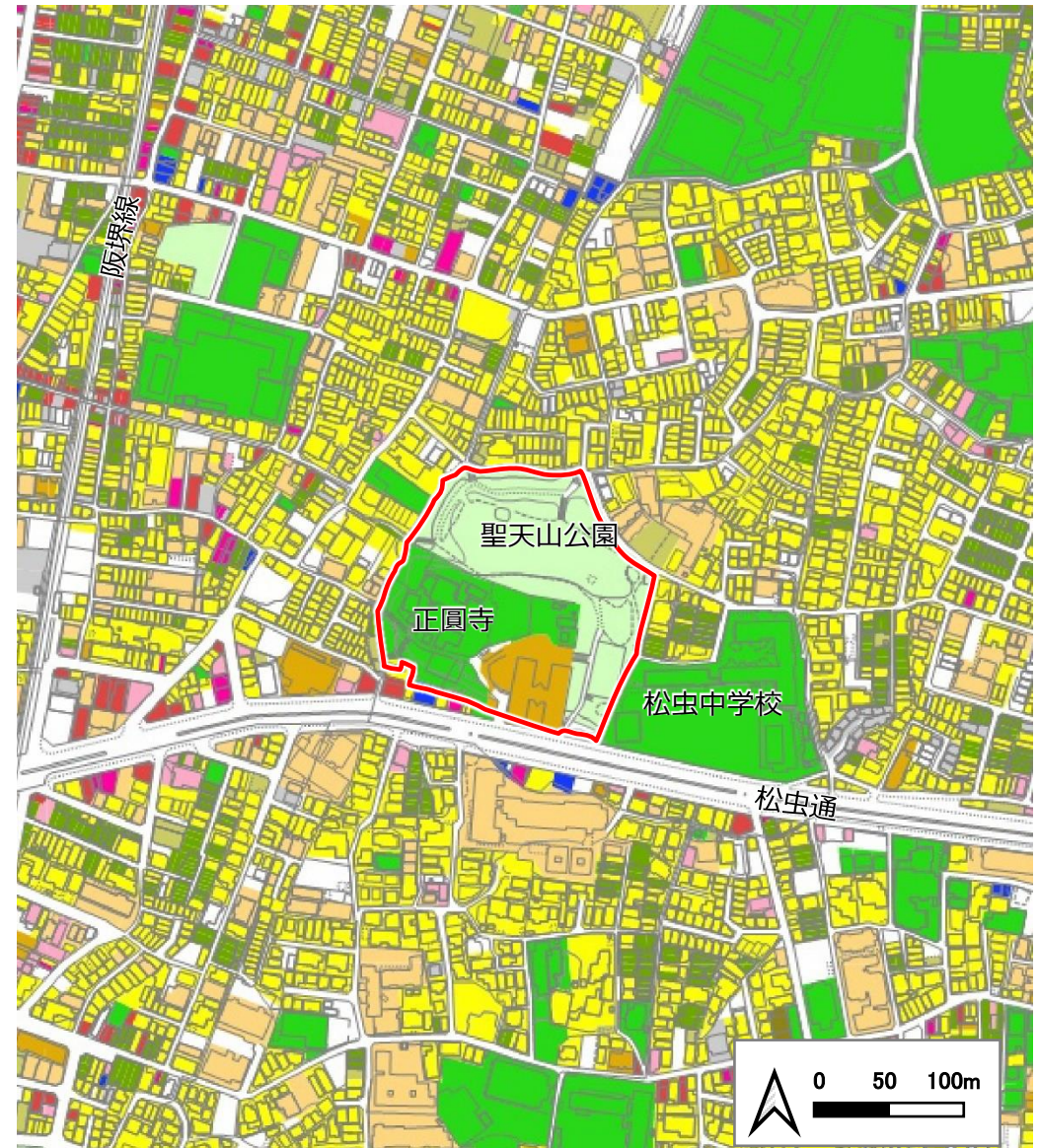
- 聖天山地区は、南側一部区域(松虫通沿い)が第2種住居地域であり、その他の区域が第2種中高層住居専用地域に指定されている。
- 周辺地域について、南側の松虫通沿いは第2種住居地域であり、その他の隣接部は第2種中高層専用地域に指定されている。



用途地域図

(3) 土地利用

- 区域内は、正圓寺境内と聖天山公園で構成されている。
- 地区の周辺では、東側に松虫中学校があるが、基本的に戸建て住宅地となっている。



※マップナビおおさか『令和3年度土地利用現況』に一部追記
土地利用図

(4) 公園緑地等

- 正圓寺を除く区域に、都市計画公園の聖天山公園(地区公園)がある。
- 地区の南側に接する松虫通りにアラカシなどの街路樹がある。

(5) 地域制緑地等

- 地区の全域が、聖天山風致地区に指定されている。
- 区域内に保存樹や天然記念物はない。

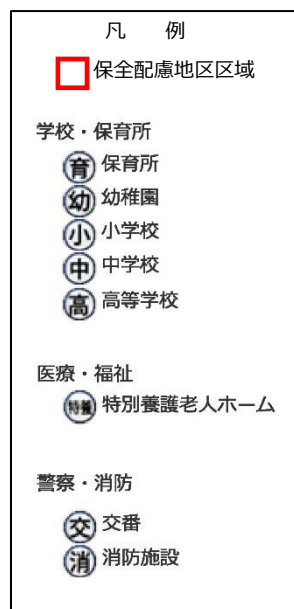


緑地等の位置図

(6) 主な施設等

1) 学校およびその他の施設

- 地区の東側には、松虫中学校などがある。隣接はしていないが、北西部に天下茶屋小学校や天下茶屋幼稚園がある。



※マップナビおおさか『施設情報マップ』に一部追記
学校・文化施設・福祉施設等位置図

2) 神社・寺院

- 凡 例
-  保全配慮地区区域
-  寺院
-  神社

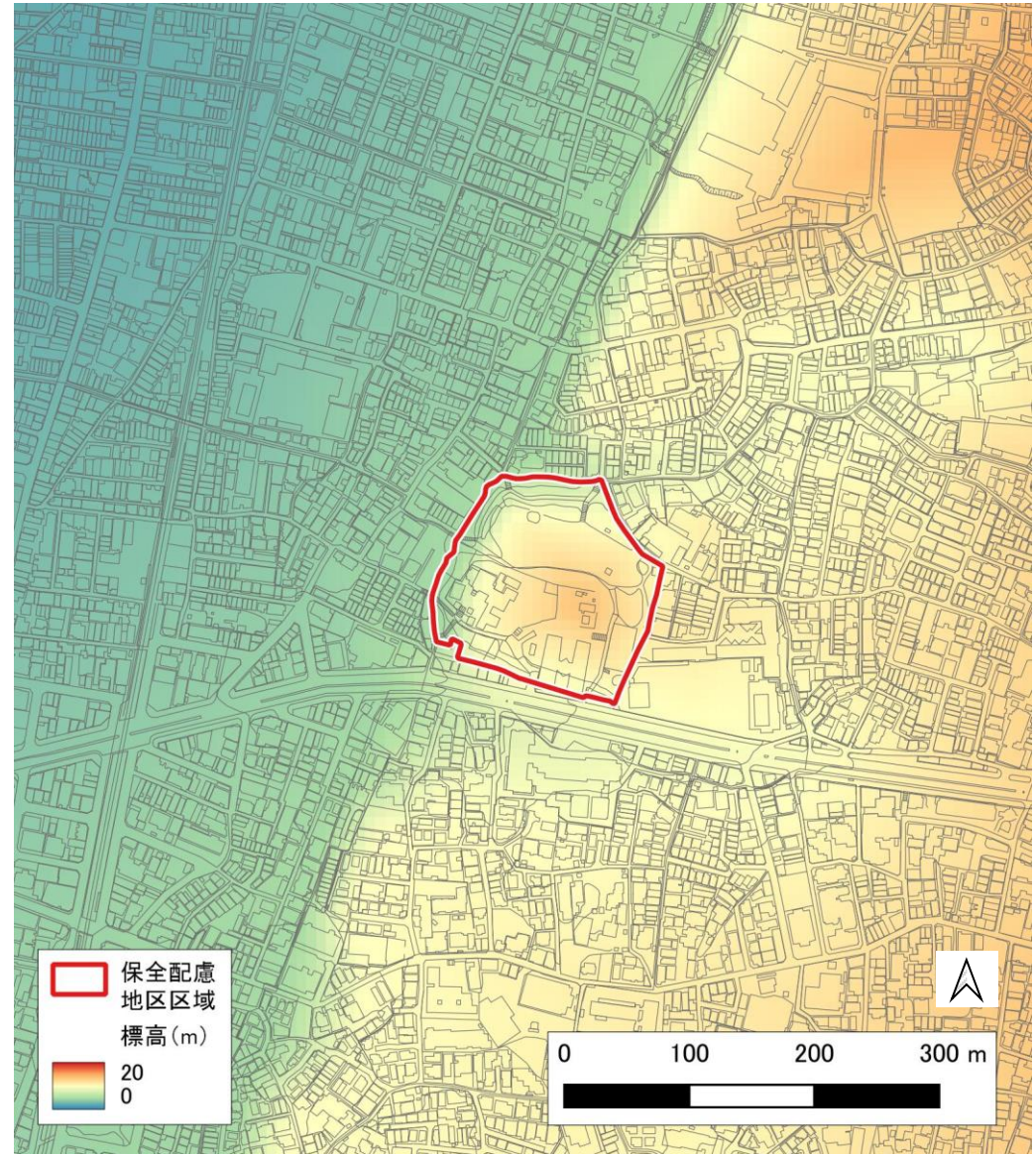


9

(7) 自然環境

1) 地形

- 聖天山地区は、大阪平野のほぼ中央を南北に細長のびる上町台地の西側に位置する。
- 上町台地の東側がなだらかに下がっているのに対して、西側は大阪湾の潮流に削られた急斜面となっている。
- 正圓寺境内には斜面緑地があるが、周辺地には残されていない。



※数値標高モデル5mメッシュ(基盤地図情報)より作成

地形図

(7) 自然環境

2) 植生等

- 保全すべき貴重な植物は見られないが、豊かな緑を構成する自然環境となっている。
- 大阪市生物多様性戦略において、生態系ネットワークの拠点となりうる貴重な自然環境として位置づけられ、保全に取り組むこととされている。
- 令和3年(2021)に実施された大阪市域生き物調査では以下の点が指摘されている。

【大阪市域生き物調査における指摘内容】

- 正圓寺のナラガシワの樹液に、シロテンハナムグリにまじって、カブトムシやゴマダラチョウがやってきており、貴重な記録となった。

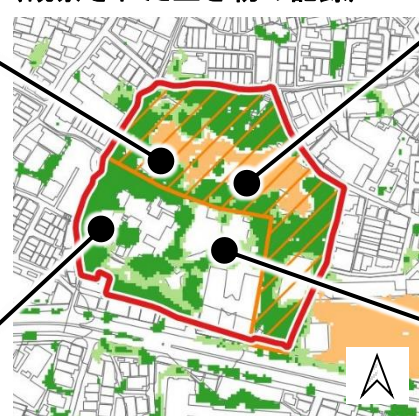
聖天山公園 No.728

・アオスジアゲハ4
・アブラゼミ4
・アミメアリ4
・オオハリアリ4
・キマダラカメムシ2
・クロヤマアリ4
・セグロアシナガバチ4
・ハリブトシリヤゲアリ4
・ヒゲナガカメムシ4
・ヒヨドリ4
アオツツラフジ1,2

イヌビワ1,4
イヌムギ2
ウラジロチチコグサ1
エノキグサ2
エノコログサ2
クサイ3
クヌギ4
シュロ4
チヂミザサ1
ツユクサ1
トベラ4
ネズミムギ2

ノボロギク1
ヒナタイノコズチ1
ヘクソカズラ1
マメグンバイナズナ3
ムラサキカタバミ1
メヒシバ2
ヤブミョウガ2
外来タンポポの一種3

〈観察された生き物の記録〉



聖天山公園 No.729

・アブラゼミ4
・クロヤマアリ4
・スズメ4
・ドバト4
・ニイニイゼミ0声
イヌムギ2
エノキグサ2
オオバコ2
オッタチカタバミ1
カモジグサ3

カンツバキ●1
キョウチクトウ●2
クサイ3
ケヤキ●1
コセンダングサ1
シロツメクサ2
タマスダレ●2
チチコグサモドキ2
ニワホロリ2
ヒナタイノコズチ1
ヒラドツツジ●1
ビワ1
ホソイ1
マメグンバイナズナ3
ヤブガラシ1
ヤブツバキ●1
ヤブラン●1
外来タンポポの一種2

正圓寺 No.728

・アオスジアゲハ4
・アオドウガネ4
・キボシトックリバチ0巣跡
・キマダラカメムシ2
・キムネクマバチ4
・クマゼミ4
・セマダラコガネ4
・ヒロヘリアオイラガ0羽化後繭
・ヤマトタマシ4
アカメガシワ1
イヌビワ1,4

エノキ4
エノコログサ3
キカラスウリ3
クサギ2
コセンダングサ1
コニシキソウ2,3
ツユクサ2
ナガイモ1
ハゼノキ4
ヒナタイノコズチ1
ムクノキ4
ヤブガラシ1,2

正圓寺 No.729

・カブトムシ4
・コガタスズメバチ4
・ゴマダラチョウ4
・シロテンハナムグリ4
ナラガシワ1
ムラサキカタバミ1

【出典：大阪市域生き物調査 阿倍野聖天山（2021.7月実施）より作成】

種名とともに、状態を表す記号を付記。

- 1: 葉, 卵, 配偶体(藓苔類等) 2: 花, 幼虫, 幼鳥, 孢子体未成熟(藓苔類)
3: 果実, 蛹, 孢子体成熟(藓苔類) 4: 実生, 成虫, 成鳥, 枯死, 休眠(藓苔類)
0: 孢子, 無性芽(藓苔類), その他

※植栽樹木は位置の目安として、または花や果実がついている場合のみ記録

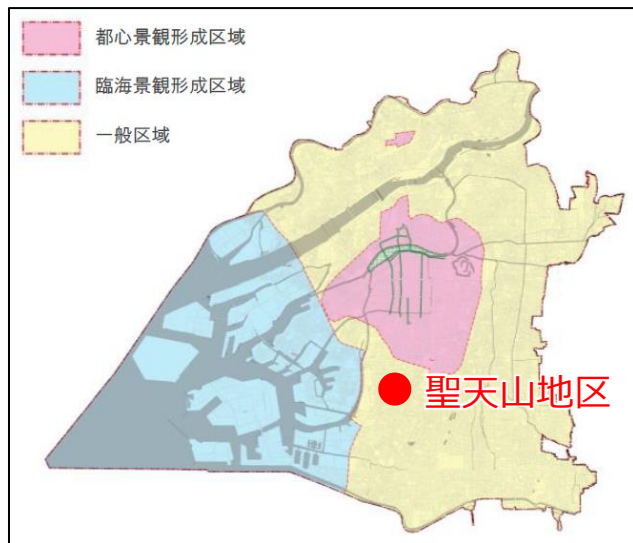
「・」: 動物 「●」: 植栽, 逸出と思われる植物
「◎」: 親木に近い実生 「★」: 特定外来生物

(8) 景観計画

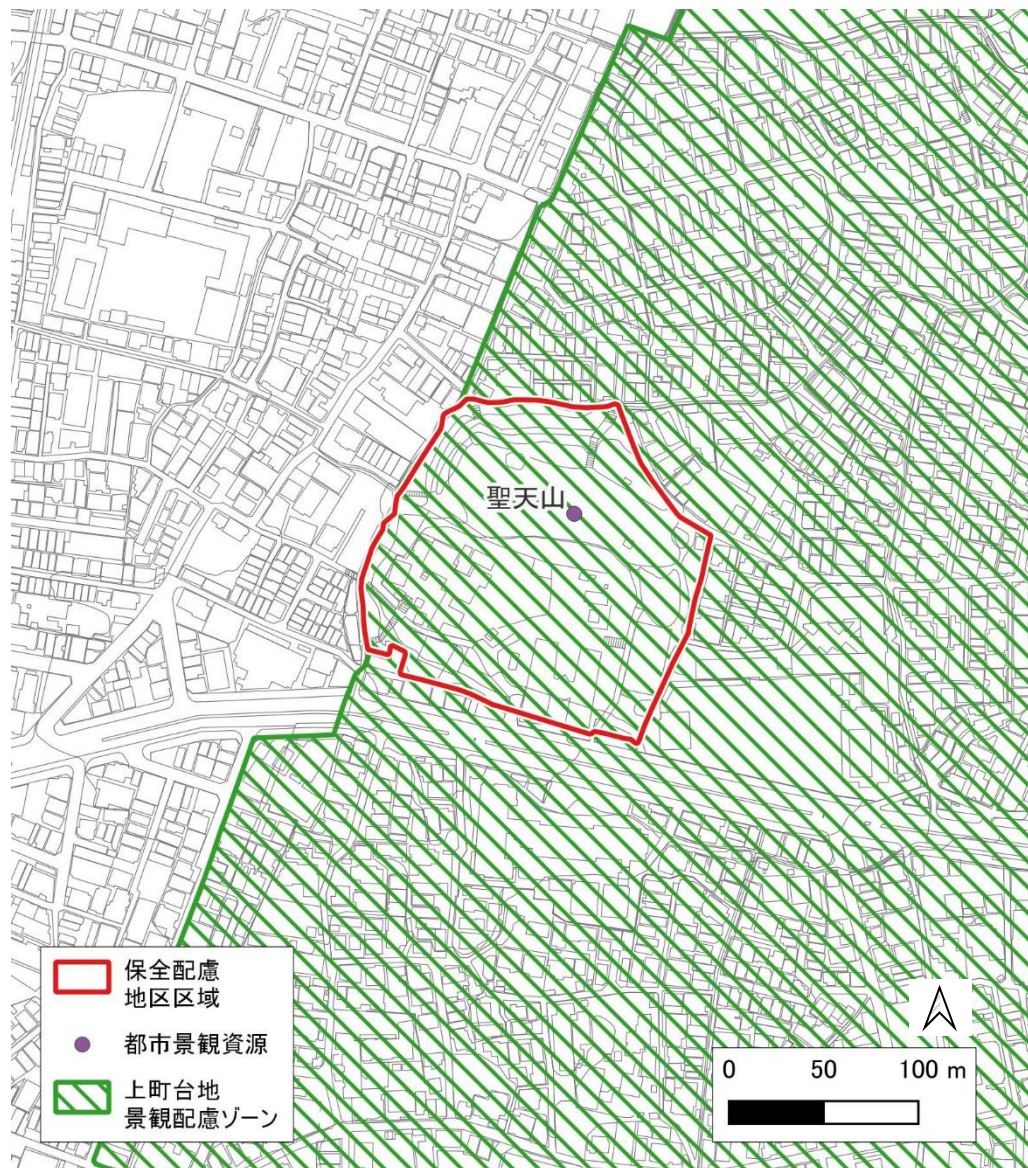
- ・ 地区の全域が、「大阪市景観計画」における基本届出区域のうち、一般区域に含まれている。
- ・ 地区の全域が「上町台地景観配慮ゾーン」に指定されている。
- ・ 地区内の都市景観資源としては、聖天山が指定されている。

【上町台地景観配慮ゾーンの方針】

- 坂・歴史・緑が連なるエリアの特性をいかした景観の形成
- ・ 坂の下からの建築物の見え方への配慮
- ・ 歴史的景観資源の保全・活用、これらの資源との調和に配慮したまちなみの形成
- ・ 緑の保全、緑との調和に配慮したまちなみ景観の形成



【大阪市景観計画における景観計画区域】

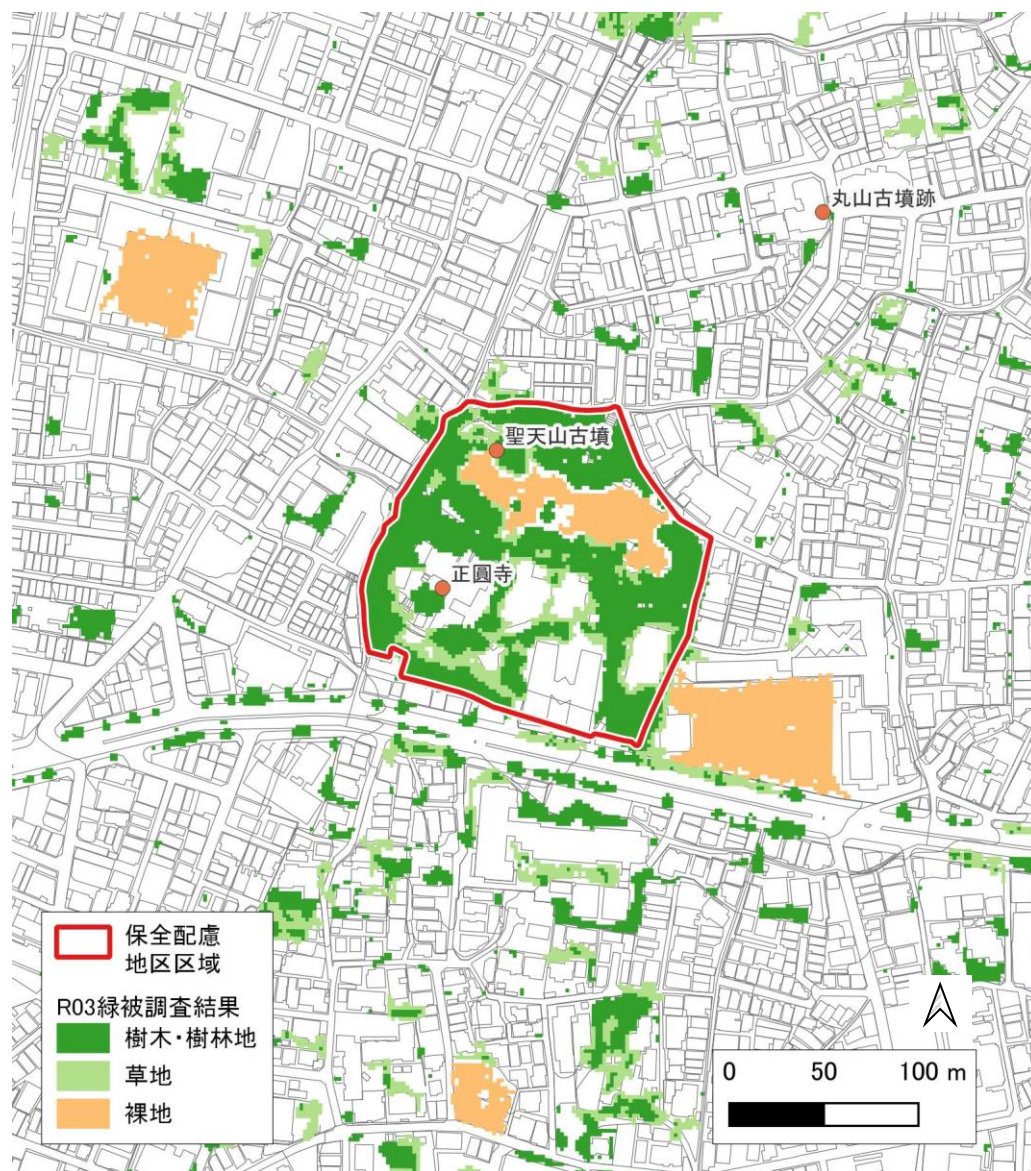


景観計画に係る区域設定および都市景観資源位置図

(9) 歴史文化

1) 地区の歴史

- 周辺地域は住吉大社の北側の上町台地上にあり、帝塚山古墳や聖天山古墳があるなど古代より歴史のある地域である。
- 大坂の町の郊外にあたり、天神の森と呼ばれていた森が中世においても広がっていた。
- 千利休の師である武野紹鷗が茶室を建てたり、摂津名所図会(1798)において天下茶屋の茶亭や聖天山が紹介されたり、明治に料亭と茶室のある公園(天下茶屋遊園地)が整備されるなど風光明媚な地域であった。
- 鉄道の開通など利便性が向上されたこともあって宅地化が進み、聖天山が周辺地域において数少ないまとまった緑地になっている。



※大阪市HP『歴史の散歩道-上町台地南コース』を参考に作成

主な歴史文化資源位置図

(9) 歴史文化

2) 文化財

- 地区内に指定等文化財はない。

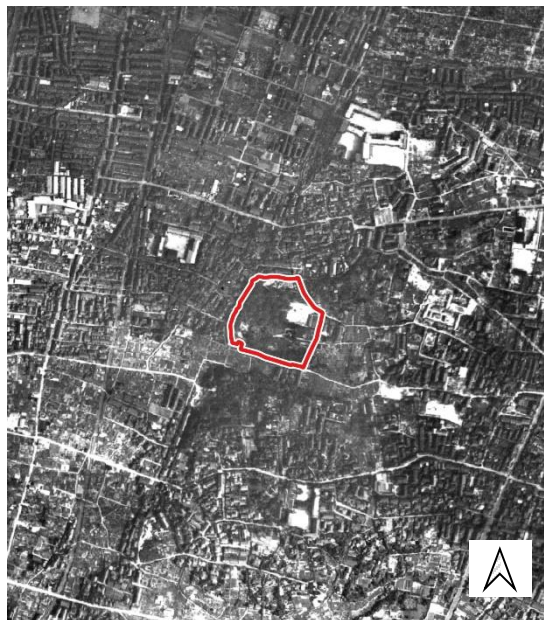


指定文化財等位置図

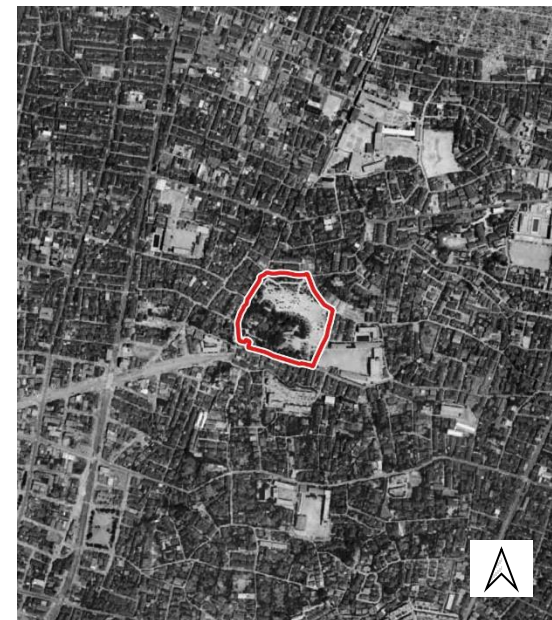
(9) 歴史文化

3) 土地利用の変遷

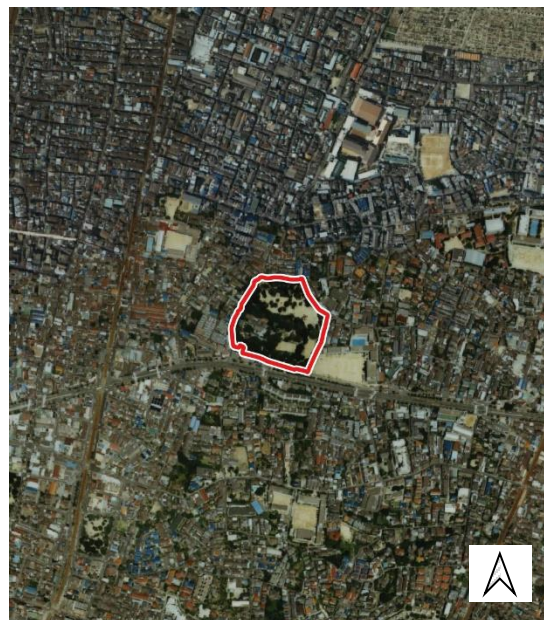
- 1942年から2023年までの航空写真を右に示した。
- 1948年は社叢林が現在の公園区域にもあったが、その後正圓寺境内のみとなっている。1961～1964年には聖天山公園は裸地のようにになっているが、その後樹木が成長したためか、緑被地が広がっている。



1948年(米軍撮影)



1961～1964年(国土地理院撮影)



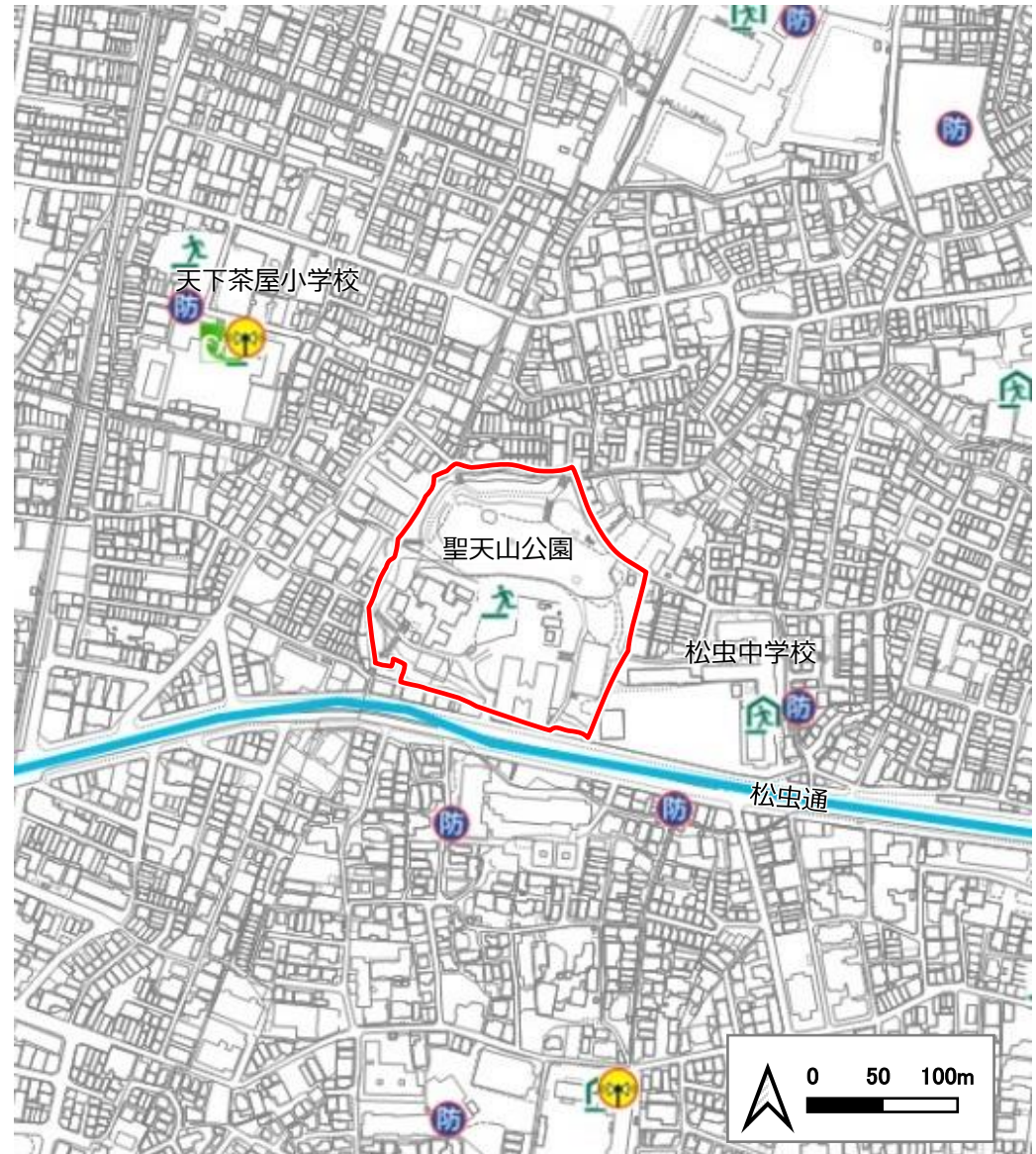
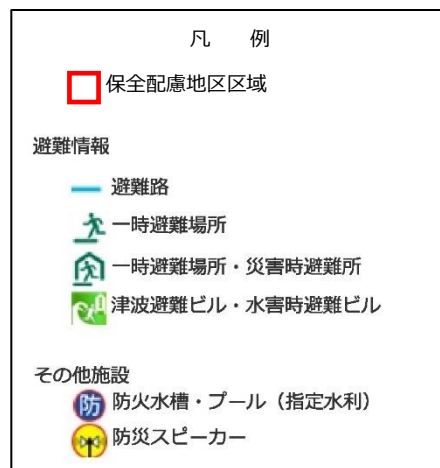
1984～1986年(国土地理院撮影)



2023年(マップナビおおさか)

(10)地域防災計画

- 大阪市地域防災計画では、聖天山公園が一時避難場所に指定されている。地区の東側の松虫中学校と北西側の天下茶屋小学校はともに、一時避難場所及び災害時避難場所に指定されている。
- 地区の南側を通る松虫通は、避難路に指定されている。

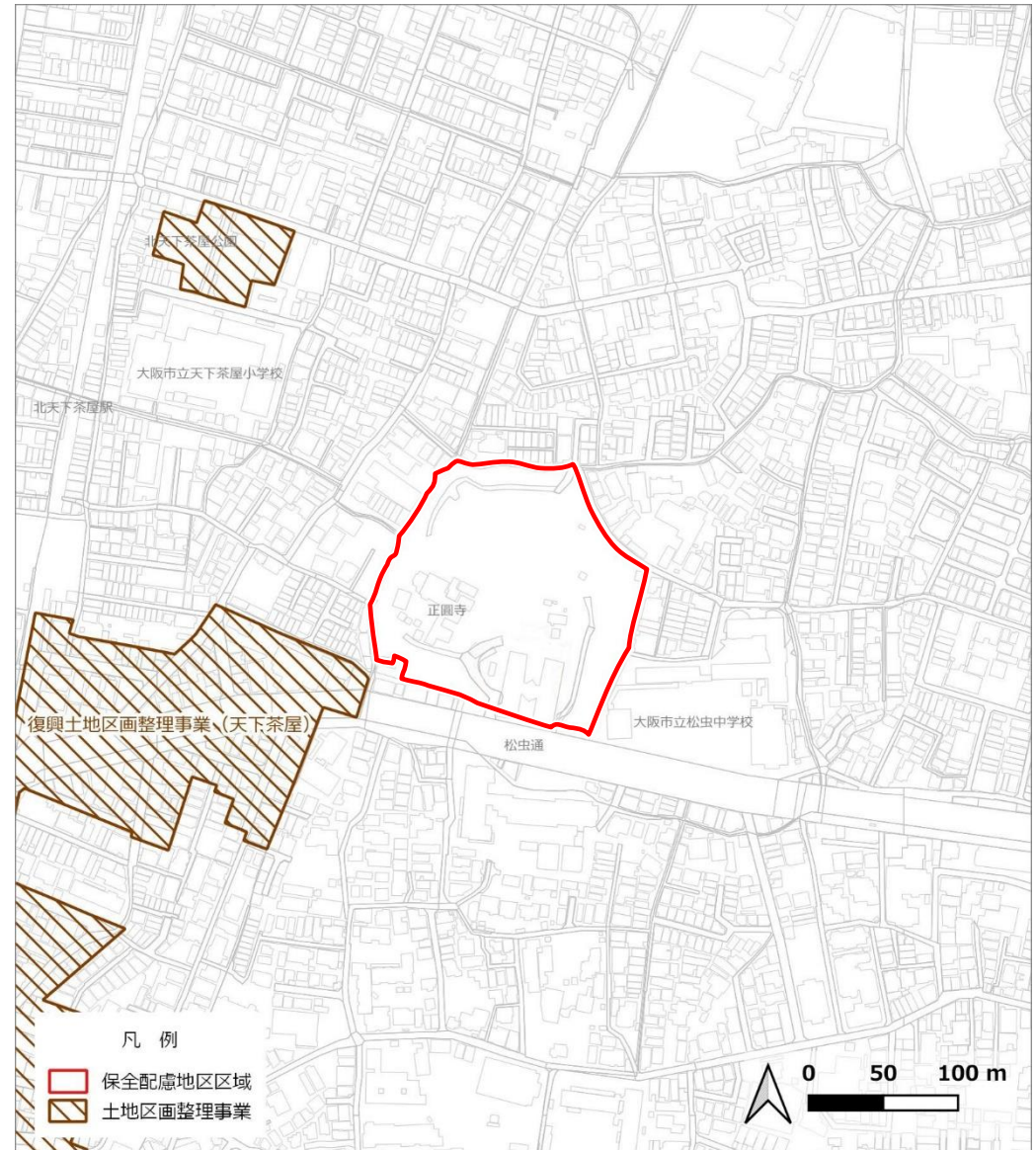


※マップナビおおさか『防災関連施設』に一部追記

地域防災計画における避難場所・避難所、緊急交通路等

(11)開発状況

- 土地区画整理事業等の状況は右図のとおりで、現在、事業中の区画整理等はない。



土地区画整理事業等位置図

(12) 市民とのかかわり

○正圓寺・聖天山古墳

- ・ 拝観で訪れる人たちもみられるほか、摂津国八十八箇所の第32番、おおさか十三仏霊場第2番に指定されており、こうした霊場巡りの拠点としても利用されている。
- ・ 大阪市が、由緒ある史跡や古くからの道筋などを結ぶモデルコースとして指定している「歴史の散歩道」の「上町台地南コース」における資源の一つとして、聖天山古墳が位置付けられ、市民に紹介されている。
聖天山古墳にはかつては天狗塚・柘榴塚といわれる小丘があり、土器・刀剣・馬具類が出土している。

○地域活動協議会

- 地域活動協議会は、連合地域を基本単位に地域の実情に応じた形で各種地域団体などの方が幅広く参加し、地域の将来像を共有しながら、地域の活性化や課題解決に取り組む地域運営の仕組みである。聖天山地区は、丸山地域活動協議会に位置付けられている。

○聖天山公園愛護会

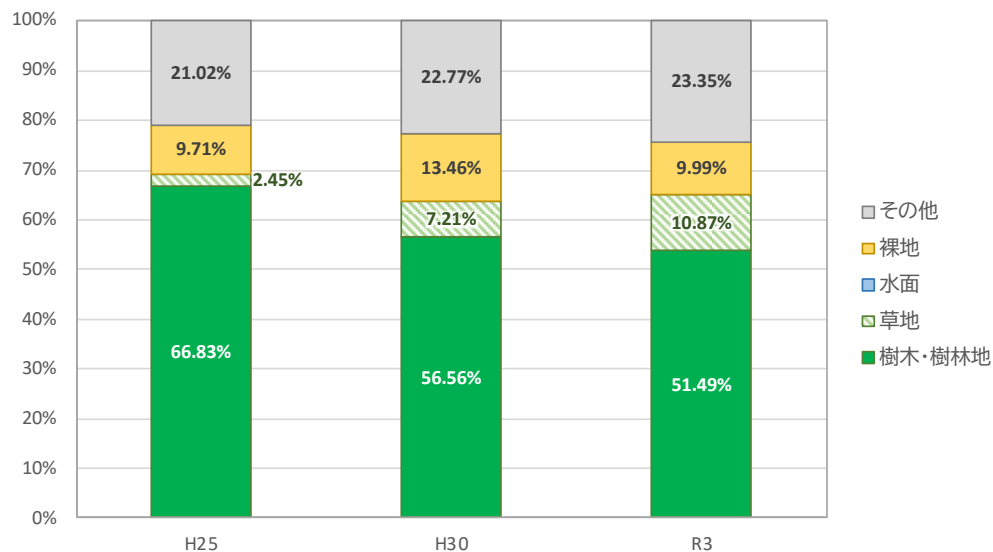
- 昭和51(1976)年4月1日に結成され、現在10人で活動されている。管理内容は、清掃、除草、薬剤散布、側溝清掃、落葉清掃である。



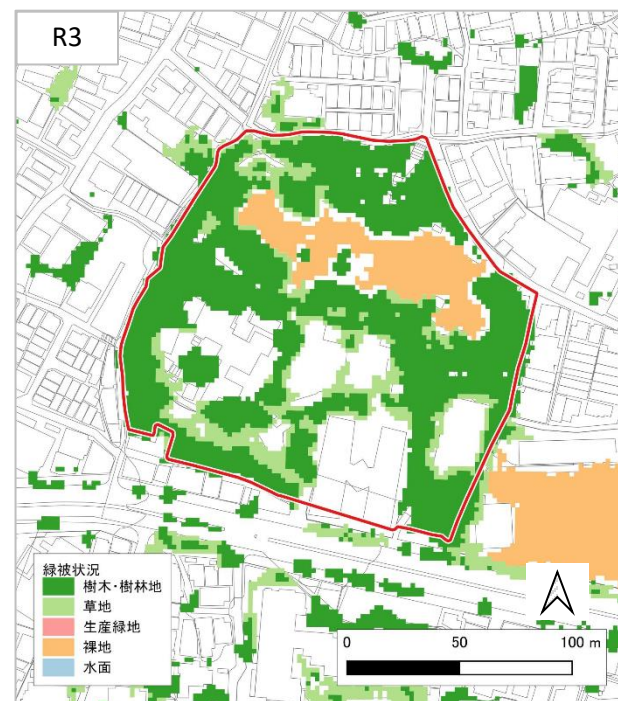
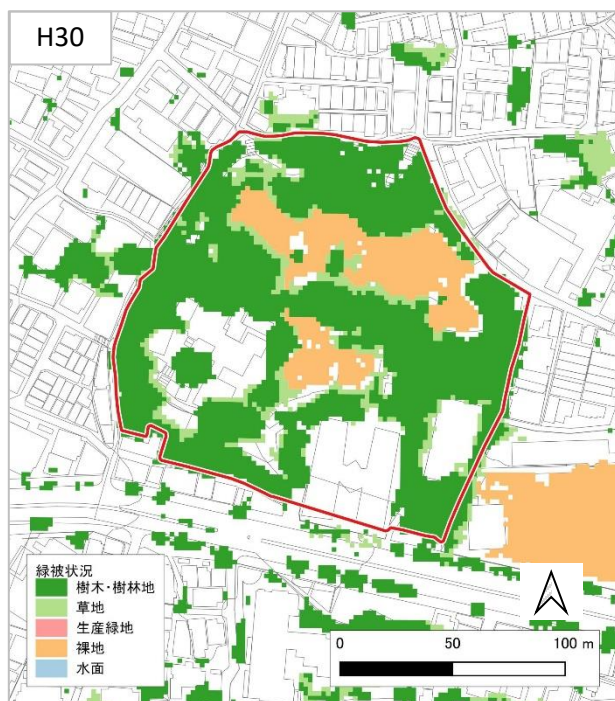
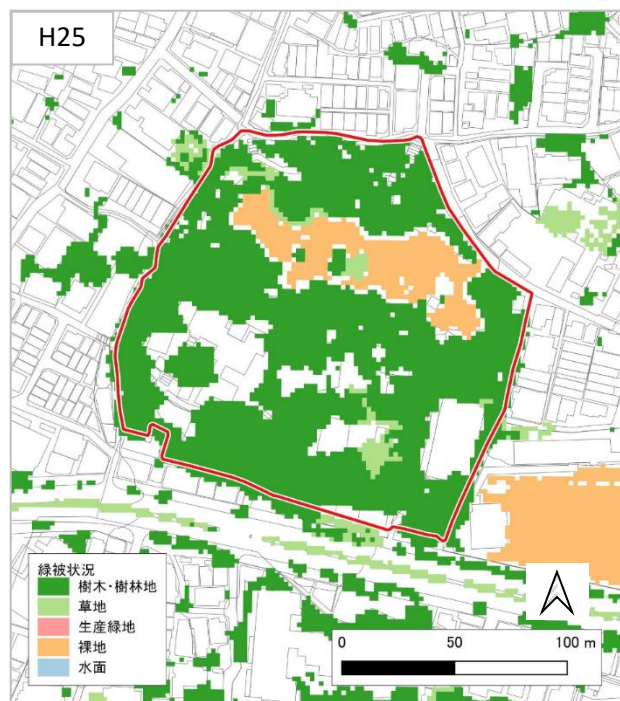
歴史の散歩道「上町台地南コース」

(13) 緑被の状況

- 正圓寺境内と聖天山公園の北側及び南東側に、まとまった緑が残っている。
- 地区内の緑被率(樹木・樹林地、草地)は 70%以下で推移している。内訳をみると、樹木・樹林地の面積が減少し、草地の面積が増加している。



緑被の状況

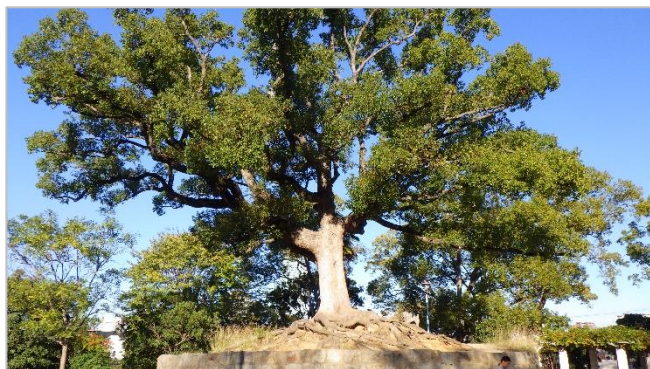


3. 現地調査結果

(1) 都市公園内

〈聖天山古墳〉

- 大きなクスノキが植わっており、公園のシンボルとなっている。



〈公園の入口〉

- 松虫通側からの入口が分かりにくい。



〈正圓寺との境界〉

- 境界部の建物等の管理が不十分であり、安全のため立入禁止となっている。



〈広場空間〉

- 休憩施設や遊具があり、地域住民の憩いの場となっている。



〈植栽等の管理〉

- 園路に雑草が繁茂する箇所がある。
- 公園内に周辺住民が置いたと思われる植木鉢やプランターが見られる。



(2) 都市公園外

〈正圓寺境内〉

- 建物周辺を取り囲むように大きな樹木が見られる。



〈正圓寺入り口付近〉

- 雑草の繁茂や裸地となっている部分が見られ、全体的に荒れた印象である。



〈公園に隣接する建物〉

- 倒壊の危険があり、公園利用に悪影響を与えている。



〈隣接地〉

- 老人ホームの建設が予定されていたが、工事途中で止まっている状況である。
- 廃墟のような雰囲気となり、周辺の景観に悪影響を与えている。

